

論文要約

医歯学総合研究科

感覚病学専攻

研究分野

眼科学

氏名

喜井 裕哉

【タイトル】

超音波乳化吸引術・眼内レンズ挿入術・硝子体手術同時手術後の長期の眼圧変化について

【序論および目的】

2006年、Chang は硝子体手術後の後期合併症として、続発緑内障を報告した。Chang の報告では、硝子体手術後に白内障手術をすると、続発緑内障の危険性がさらに高まった。また Chang の報告では、裂孔原性網膜剥離や硝子体出血、水晶体物質残存など、それ自体が眼圧上昇を引き起こしうる疾患が対象に含まれていた。われわれは、眼圧上昇を引き起こしうる疾患を除外することにより、手術自体が本当に、続発緑内障の危険性があるのか調査することにし、白内障・硝子体同時手術が、眼圧に及ぼす影響について調査した。

【材料および方法】

2001年12月～2005年3月に、白内障・硝子体同時手術を施行した特発性網膜前膜（ERM）および特発性黄斑円孔（MH）の連続症例105例のうち、1年以上経過観察できた85例85眼。術前に緑内障既往のある症例はなし。

除外項目：

- ・術後1年以内に術眼に再手術を受けた症例
- ・術中に眼圧に影響する合併症を生じた症例
- ・僚眼に手術既往のある症例
- ・術後1年以内に僚眼に手術を受けた症例
- ・僚眼に疾患がある症例

白内障手術を行った後に硝子体手術を施行した。硝子体手術は、20ゲージ標準3ポート硝子体手術を施行。MHでは術終了時にSF₆ガスで硝子体内を置換した。術後1か月、3か月、6か月、12か月、その後は1年毎の眼圧を診療録より抽出し、術前および僚眼と比較した。眼圧測定は非接触型眼圧計で3回測定し、中央値を眼圧値とした。

【結果】

術後各観察期間で、眼圧が21mmHgを越えたのは2例3眼のみであった。術前と比較して、各経過観察期間で、眼圧上昇は認めなかった。また、各経過観察期間で、僚眼と比較しても、術眼の眼圧上昇も認めなかった。

【結論および考察】

白内障・硝子体同時手術後に、著明な眼圧上昇を示す症例はなかった。術後続発緑内障の観点から、白内障・硝子体同時手術は危険性の低い手術といえる。しかし、眼圧が上昇する症例もあり、慎重な経過観察は必要である。